

■北斗市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:11、児童数:446名)

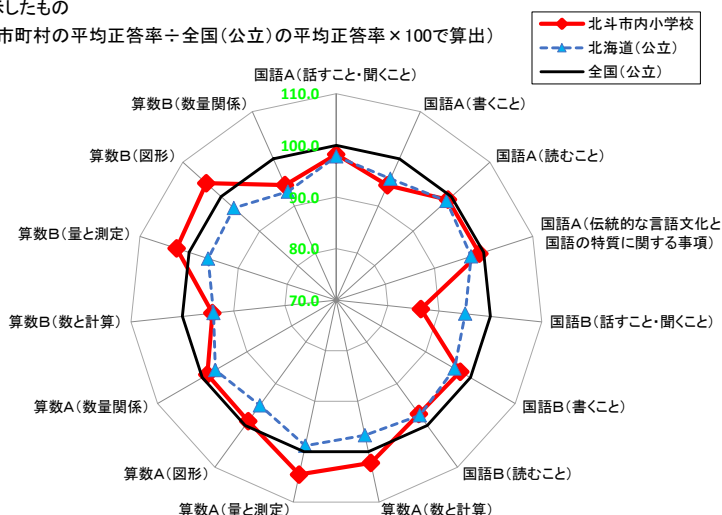
＜北斗市の平均正答率＞

国語A	国語B	算数A	算数B
71.7	55.0	79.2	45.4

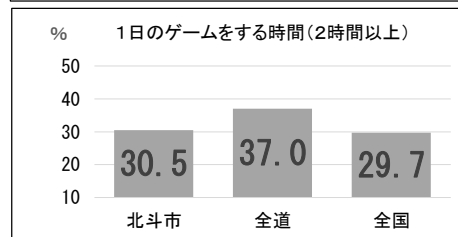
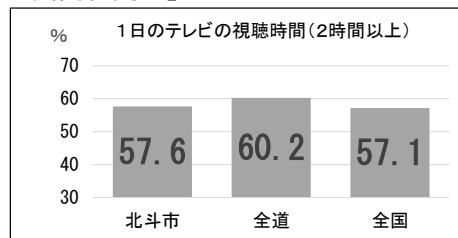
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

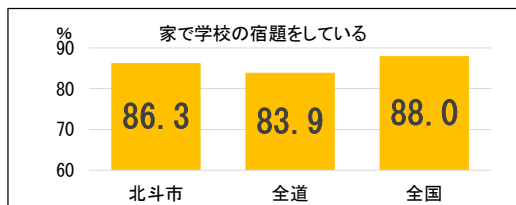
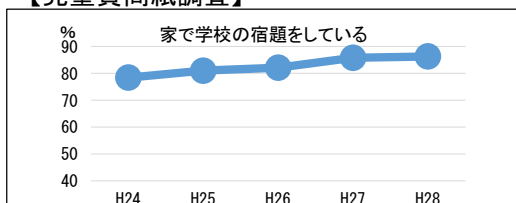
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



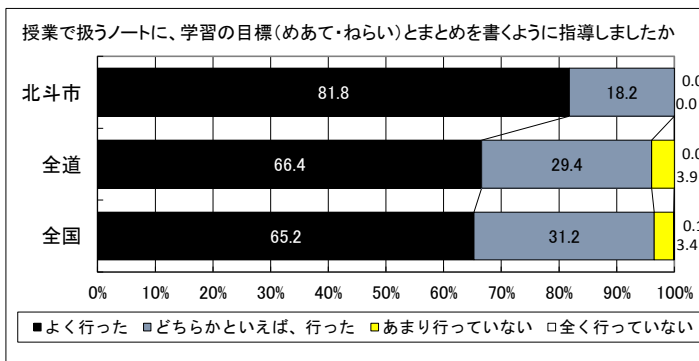
【児童質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aにおいて、全道の平均正答率を上回っている。 ○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、Bでは、「書くこと」で、全道を上回っている。 ○ 算数Aにおいて、全国の平均正答率を上回り、Bにおいて、全道の平均正答率を上回っている。 ○ 算数Aでは、「数と計算」「量と測定」、Bでは、「量と測定」「図形」で、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同一中学校区で「学習・生活のスタンダード」を徹底した結果、テレビの視聴時間やゲームをする時間が2時間以上の児童の割合が、全道を下回り、望ましい生活習慣が定着したと考えられる。 ○ 導入段階でめあて・ねらいを示すなど、導入・展開・終末の基本的な指導過程の徹底を図った結果、基礎的・基本的な学習内容の定着に結び付いたと考えられる。 ○ 放課後学習や補充的な学習サポートを実施した結果、正答率が全国の下位約25%に含まれる児童の割合が、国語A、算数Aで全国及び全道を下回り、学力の向上に結び付いたと考えられる。
児童質問紙	○ 「家で学校の宿題をしている」と回答した児童の割合が、全道を上回っており、平成24年度から増加傾向にある。	
学校質問紙	○ 「授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。	

【北斗市の学力向上策】

- ◎ 「北斗市学力等向上プラン」における各教科の平均正答率と下位層の数値目標の設定
- ◎ 少人数指導教員・複式学級補助教員・教育活動推進教員、学習支援員の配置やICT活用の充実
- ◎ 学校改善プランの長期的・短期的PDCAサイクルの確立
- ◎ 中学校校区による「学習・生活のスタンダード」の徹底や放課後学習や補充的な学習サポートの充実

■北斗市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:5、生徒数:436名)

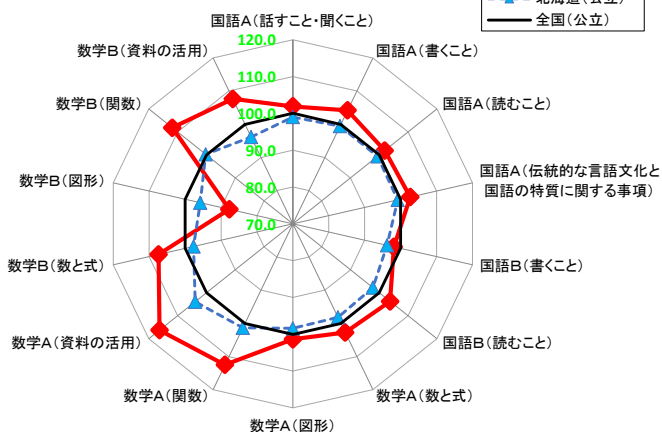
＜北斗市の平均正答率＞

国語A	国語B	数学A	数学B
77.6	69.0	65.6	47.1

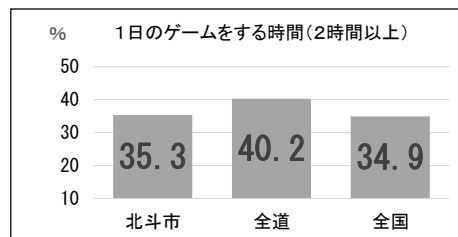
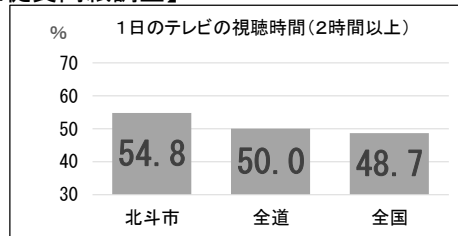
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

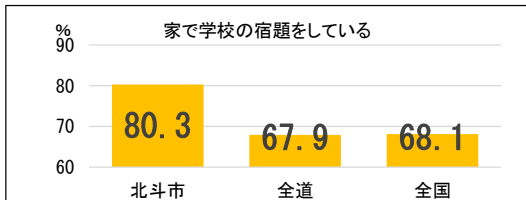
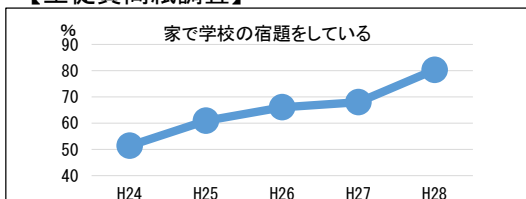
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



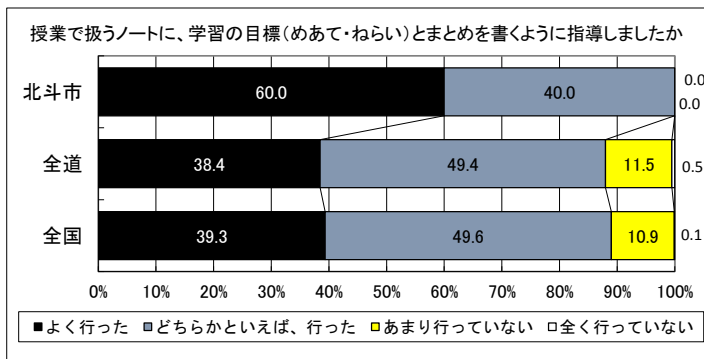
【生徒質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語A・Bにおいて、全国の平均正答率を上回っている。 ○ 国語Aでは、すべての領域、Bでは、「読むこと」で、全国を上回っている。 ○ 数学A・Bにおいて、全国の平均正答率を上回っている。 ○ 数学Aでは、すべての領域、Bでは、「数と式」「関数」「資料の活用」で、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校の組織的な授業改善や家庭学習習慣の定着を図った取組の結果、平均正答率が、全国を上回ったと考えられる。今後は、国語の「書くこと」では、必要な条件を把握し、根拠に基づいて自分の考えを文章化することや、数学の「図形」で、筋道を立てて説明する力を育成する必要がある。 ○ 各中学校区での「ノーゲームデー」等の取組の結果、テレビの視聴時間やゲームをする時間の長い生徒が、徐々に減少したと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家で学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合が、平成24年度から増加傾向にある。 ○ 「1日のテレビの視聴時間が2時間以上である」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後学習や補足的な学習サポートを実施した結果、正答率が全国の下位約25%に含まれる生徒の割合が、すべての教科において、全国及び全道を下回り、学力の向上に結び付いていると考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導した」と回答した学校が、全国を上回っている。 	

【北斗市の学力向上策】

- ◎ 「北斗市学力等向上プラン」における各教科の平均正答率と層の底上げと上位層の積み上げ
- ◎ 少人数指導教員・複式学級補助教員・教育活動推進教員、学習支援員の配置やICT活用の充実
- ◎ 学校改善プランの長期的・短期的PDCAサイクルの確立
- ◎ 中学校校区による「学習・生活スタンダード」の徹底や放課後学習や補足的な学習サポートの充実